

## 支部だより

2015.11.5 No.4 東京支部事務局

### 2015 JNP 東京支部秋の撮影会終了の報告

撮影会担当役員 戸張 眞

2015年『秋の撮影会』は、10/24・25の2日間、9名が参加し開催された。24日朝5時暗い中、道の駅「さかえ」に集合。

5台の車を連れ一路早朝撮影地「野々海高原」に向かった。残念ながら、野々海池にはガスはなく、今一つではあったが、幸い深坂峠からはススキと朝焼けが見られ、皆、良いねと言いながら撮影。その後、カヤノ平方面へ移動。途中にある黄色の葉を残しどっしりと立っている大ブナを夢中で撮影。その後、一旦宿舎のピュア「長坂」に寄り、昼食。夕景撮影は、上の平付近にて輝くススキと残照を暗くなるまで撮影した。➡

### 第3回 例会（9/12）の様子

例会出席 12名 作品持参 10名：46作品

第2回に続き、今回も『タイトル』についてのご指導を頂きました。T氏の“里山の春”では「題名、苦勞して考えているようですが、作品がドラマチックなのでタイトルもドラマチックな表現がいい」等、作品が生きるタイトルを・・・との事でした。

今回特に講評で触れられたのが『構図』についてでした。撮影時、トリミング時の構図に時間が割られました。46作品の内、11作品余りに構図の指導がありました。構図を決める考え方を学ぶことが出来ました。N氏の“朝焼けに咲く”は、素晴らしい朝焼けなので生きるような構図を、またI氏の“溪流に育つ”ではワンポイントの白い花が小さいので大きめに撮り入れる方がワンポイントが生きる。

S氏の“朝靄の桜”ではカメラ位置がよく、いい構図に纏まっている。「場所取りも技術(うで)のうち」と助言がありました。

➡ 夜の懇親会は7時にスタート。まずは、ビールで乾杯、女将の美味しい手料理を楽しみながら、今日の撮影の感想、写真談義、高橋さんからのワンポイントアドバイス・・・。やはり気のおけない写真仲間と一杯飲みながらの写真談義は楽しい。

翌朝、カヤノ平の紅葉と光芒を期待し、4時にピュア「長坂」を出発。しかし、雲が厚くガス、光芒は出ず。皆、牧場の北に咲く枯れた花を入れ、作品づくりに没頭。

解散後は、年に2回しか見られないと言う樽滝が本日のみ見られるという事で、皆、樽滝へ直行、紅葉と滝の姿を満喫し、その後各自帰路についた。

\*\*\*\*\* ◇ \*\*\*\*\*

### いくら撮っても 飽きない景色

この度の撮影会で一番心に残った撮影スポットは、澄んだ水をたたえて、シラカバと紅葉を静かな水面に映す野々海池です。感激して何枚も撮るうちに、どんどん光が変わって対岸のシラカバの1本だけがスポットライトを浴びているように浮き上がって見えるようになってきました。高橋講師がそういう写真を見て、あれこれ推理して突き止めた撮影スポットだそうです。いろいろと構図を変えては撮りましたが、いくら撮っても飽きない景色でした。皆様も「きりが無い」などと呟いておいででした。

野々海池の美しさ以外に心に残ったのは、皆様がすばらしい撮影スポットの情報を出し惜しみすることなく、じつに気前よく仲間とシェアしようという姿勢です。写真クラブや指導講師によっては、撮影スポットは資本投下の末に得られた貴重な情報だから有償で参加した人だけが知りうる情報だとして仲間うちでさえ秘匿することを要求される場合もあるのに、と思うと感動することしきりでした。

わたしも白馬にはよく撮りに行くので、皆様に有益な情報を提供できるようにならなくては、と思いました。 泉屋 ゆりこ (文)

[付記]

参加者 戸張(眞) 高橋 泉屋 井上 鈴木(雍)  
陶山 戸張(伸) 山口 渡邊(勝)